

JAPANESE: LEVEL I

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

ごじゅうおん
『五十音』 きたはら はくしゅう

あめんぼ あかいな あいうえお
かきのき くりのき かきくけこ
ささげに すをかけ さしすせそ
たちましょ らっぱで たちつてと
なめくじ のろのろ なにぬねの
はとぼっぼ ほろほろ はひふへほ
まいまい ねじまき まみむめも
やきぐり ゆでぐり やいゆえよ
らいちょうは さむかろ らりるれろ
わいわい わっしょい わいうえお

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection I

『^{まど}窓』 にいみ なんきち

まどをあければ
かぜがくる かぜがくる
ひかったかぜがふいてくる

まどをあければ
こえがくる こえがくる
とおい^こ子どものこえがくる

まどをあければ
そらがくる そらがくる
こはくのようなそらがくる

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection II

『^{おお}大きな^{ふる}お風呂』 ありが れん

だれもしらない

ところです。

とても大きな

^{ふる}お風呂です。

^{つき}月はひとりで

はいります。

^{つき}月があがった

そのあとは、

^{ほし}星がみんな

はいります。

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection III

『こだまでしょうか』 かねこ みすず

「あそぼう」っていうと

「あそぼう」っていう。

「ばか」っていうと

「ばか」っていう。

「もうあそばない」っていうと

「もうあそばない」っていう。

そして、あとで

さみしくなって、

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、

いいえ、だれでも。

JAPANESE: LEVEL II

NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory Selection

『不思議』 かねこ ず
金子 みすゞ

わたしは不思議でたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしは不思議でたまらない、
青いくわの葉たべている、
かいこが白くなることが。

わたしは不思議でたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりでぱらりと開くのが。

わたしは不思議でたまらない、
たれにきいてもわらってて、
あたりまえだ、ということが。

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection I

『さくらの はなびら』 まど みちお

えだを はなれて
ひとひら

さくらの はなびらが
じめんに たどりついた

いま おわったのだ
そして はじまったのだ

ひとつの ことが
さくらに とって

いや ちきゅうに とって
うちゅうに とって

あたりまえすぎる
ひとつの ことが

かけがえのない
ひとつの ことが

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection II

『ぜんぶ』 さくら ももこ

^{たいせつ}
大切なことは
ぜんぶここにある。
な^な泣くこと わら^{わら}うこと
おこ^{おこ}怒ること よろこ^{よろこ}ぶこと
あたりまえの^{きも}気持ちは
あたりまえのものとして
そのまま ^{いま}今ここにある。
もうどこへも行かなくても
なんにもしなくても
どこへ^い行っても
^{なに}
何をしても
ぜんぶそのままだ。

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection III

うみ たいよう おがわ みめい
『海と太陽』 小川 未明

うみ ひる よる
海は昼ねる 夜もねる
ごうごう いびきをかいてねる

むかし むかし おおむかし
昔 昔 大昔
うみ くちあ
海がはじめて 口開けて

わら とき たいよう
笑った時に 太陽は
め おどろ
目をまわして 驚いた

はな
かわいい花や 人たちを
うみ の
海が呑んでしまおうと

ひか たいよう
やさしく光る太陽は
まじゅつ うみ ねむ
魔術で 海を眠らした

うみ ひる よる
海は昼ねる 夜もねる
ごうごう いびきをかいてねる

JAPANESE: LEVEL III

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory Selection

『われは草^{くさ}なり』 高見^{たかみ} 順^{じゆん}

われは草^{くさ}なり 伸^のびんとす
伸^のびられるとき 伸^のびんとす
伸^のびられぬ日^ひは 伸^のびぬなり
伸^のびられる日^ひは 伸^のびるなり

われは草^{くさ}なり 緑^{みどり}なり
全身^{ぜんしん}すべて 緑^{みどり}なり
毎年^{まいとし}かわらず 緑^{みどり}なり
緑^{みどり}のおのれに あきぬなり

われは草^{くさ}なり 緑^{みどり}なり
緑^{みどり}の深^{ふか}さを願^{ねが}うなり

ああ 生^いきる日^ひの 美^{うつく}しき
ああ 生^いきる日^ひの 楽^{たの}しさよ
われは草^{くさ}なり 生^いきんとす
草^{くさ}のい^いのちを 生^いきんとす

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection I

たけ はぎわら さくたろう
『竹』 萩原 朔太郎

ひか じめん たけ は
光る地面に竹が生え、
あおたけ は
青竹が生え、
ち か たけ ね は
地下には竹の根が生え、
ね
根がしだいにほそらみ、
ね さき せんもう
根の先より織毛が生え、
かすかにけふる せんもう
かすかにけふる織毛が生え、
かすかにふるえ。

かたき じめん たけ は
かたき地面に竹が生え、
ちじょう たけ は
地上にすどく竹が生え、
まっしぐら たけ は
まっしぐらに竹が生え
こお ふしぐし
凍れる節節りんりんと、
あおぞら たけ は
青空のもとに竹が生え、
たけ たけ たけ は
竹、竹、竹が生え。

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection II

『^{しん}信^じじる』 ^{たにかわ}谷川 ^{しゅんたろう}俊太郎

^{わら}笑^うときは^{おおぐち}大口^あけて
おこるときには^{ほんき}本気で^おこる
^{じぶん}自分^にうそ^がつけ^ない ^{わたし}私
そんな^{わたし}私^を ^{わたし}私^は ^{しん}信^じる
^{しん}信^じること^に ^{りゆう}理由^は ^いら^ない

^{じらい}地雷^を ^{あし}ふ^んで^あし^を ^なく^した
^{こども}子供^の ^{しゃしんめ}写^真目^を ^そら^さず^に
^{だま}黙^って ^{なみだ}涙^を ^なが^した^あな^た
そんな^{わたし}あなた^を ^{わたし}私^は ^{しん}信^じる
^{しん}信^じること^で ^よみ^が ^える^いの^ち

^{はずえ}葉^末の ^{つゆ}露^が ^{あさ}き^らめ^く ^あさ^に
^{なに}何^を ^{こしか}みつ^める^こじ^かの^ひと^み
すべての^ひものが^ひ ^びあ^{たら} ^しん^い
そんな^{せかい}世界^を ^{わたし}私^は ^{しん}信^じる
^{しん}信^じること^は ^いき^る ^みな^もと

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection III

『かきの実』 よだ じゅんいち
与田 準 一

つゆがしもに^か変わり、
しもは朝^{あさ}ごとに^{しろ}白くなる。

むら 村のかきの^み実は、^{あか}赤くうれ、
^{あか}赤く、^{あか}赤くうれ、
^{ひく}低いえだから、だんだんへっていく。

そら いちにち ^{あお}空は一日、^{あお}青くすみ、
^{あお}青く、^{あお}青くすみ、
からすのむれが、
ごまをまいたように^と飛ぶ。

そんな日^ひが^{つづ}続き、
おな 同^ひじような日^{つづ}が^{つづ}続き、
こずえに^{のこ}残されたかきの^み実、^{ひと}一つ。

^み実^{あか}は^{ひか}赤く^{ひか}光り、
^{あか}赤く、^{あか}赤く^{ひか}光り、
^{ふゆ}冬^きが^{しんごう}来た^{しんごう}信号^{しんごう}のように、
むら 村^{はや}でいちばん^{あさひ}早く^{あさひ}朝日^{あさひ}をあびる。

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory Selection

つきよ はまべ なかはら ちゅうや
『月夜の浜辺』 中原 中也

つきよ ばん ひと
月夜の晩に、ボタンが一つ
なみうちぎわ お
波打際に、落ちていた。
それをひろ やくだ
拾って、役立てようと
ぼく おも
僕は思ったわけでもないが
なぜだかそれをす しの
捨てるに忍びず
僕はそれを、たもと
袂に入れた。

つきよ ばん ひと
月夜の晩に、ボタンが一つ
なみうちぎわ お
波打際に、落ちていた。
それをひろ やくだ
拾って、役立てようと
ぼく おも
僕は思ったわけでもないが
つき むか ほう
月に向ってそれは抛れず
なみ むか ほう
浪に向ってそれは抛れず
ぼく たもと い
僕はそれを、袂に入れた。

つきよ ばん ひろ
月夜の晩に、拾ったボタンは
ゆびさき し こころ し
指先に沁み、心に沁みた。

つきよ ばん ひろ
月夜の晩に、拾ったボタンは
どうしてそれが、す
捨てられようか？

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection I

にじゅうおくこうねん こどく たにかわ しゅんたろう
『二十億光年の孤独』 谷川 俊太郎

じんるい ちい たま うえ
人類は小さな球の上で
ねむ お はたら
眠り起きそして働き
ときどき かせい なかま ほ
ときどき火星に仲間を欲しがったりする

かせいじん ちい たま うえ
火星人は小さな球の上で
なに ぼく し
何をしているか 僕は知らない
あるい
(或はネリリし キルルし ハララしているか)

ちきゅう なかま ほ
しかしときどき地球に仲間を欲しがったりする
それはまったくたしかなことだ
ばんゆういんりょく
万有引力とは
ひ あ こどく ちから
引き合う孤独の力である

うちゅう
宇宙はひずんでいる
ゆえ あ
それ故みんなはもとめ合う
うちゅう ふく
宇宙はどんどん膨らんでゆく
ゆえ ふあん
それ故みんなは不安である
にじゅうおくこうねん こどく
二十億光年の孤独に
ぼく おも
僕は思わずくしゃみをした

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection II

『サフラン』 ^{しんかわ} ^{かずえ}
新川 和江

さびしい^{ひと}人から
さびしさを引いた^{かず}数だけ
サフランは ひらきます

木^きに咲^さく花^{はな}のように
高^{たか}い梢^{こずえ}を 知^しりません
小鳥^{ことり}が飛^とんできてとまる
てごろな枝^{えだ}も 持^もちません
束^{たば}ねてリボンをかけようにも
ほどよい茎^{くき}さえ ありません

でも 地^ちにひくく咲^さくゆえに
空^{そら}の深^{ふか}みにおいでのお方^{かた}を
まばたきもせず
見^みつめることができるのです
あの方^{かた}は一^{いち}りん一^{いち}りに
ひかりのまなざしを^{そそ}注いでくださいます

たくさんさびしさよ
サフランとなつて 咲^さきなさい
サフランと咲^さいて 癒^いえなさい

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection III

『いま始まる 新 しいいま』 かわさき ひろし
川崎 洋

しんぞう おく だ しんせん けつえき
心臓から 送り出された 新鮮な血液は

じゅうすうびょう ぜんしん
十 数 秒 で全身をめぐる

わたしはさっきのわたしではない

そしてあなたも

わたしたちはいつも 新 しい

さなぎからかえったばかりの 蝶 が

う かげろう なか ゆ
生まれたばかりの陽炎の中で揺れる

はな
あの花は

つぼみ
きのうはまだ 蕾 だった

うみ わた あたら かぜ
海を渡ってきた 新 しい風がほら

おど はし
踊りながら走ってくる

しぜん あたら
自然はいつも 新 しい

し
きのう知らなかったことを

し よろこ
きょう知る 喜 び

き
きのうは気づかなかったけど

み
きょう見えてくるものがある

ひ び あたら せかい
日々 新 しくなる世界

こだいし いちぶ ぬ か
古代史の一部がまた塗り替えられる

か こ あたら
過去でさえ 新 しくなる

あたら あ
きょうも 新 しいめぐり合いがあり

あい
まっさらの愛が

(Continued on next page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection III, cont'd)

つぎつぎ う
次々に生まれ

いま初めて歌われる歌がある
はじ うた うた

いつも いつも

あたらしいのちを生きよう
あたらしい

いま始まる新しいいま
はじ あたら